

## 令和7年度第23回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。  
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日時:令和7年11月8日(土)14:00～

場所:加賀野コミュニティセンター

参加者:10名



- ◆ SNS に力を入れており、先進的な取り組みをしていると自負しています
- ◆ 各団体が自立してがんばっているのので、それを繋ぐ役割を果たしたいと思っています

(参加者)

加賀野コミュニティセンターと加賀野地区コミュニティ組織は、SNS に力を入れています。白山市では初めて、令和6年1月に全国公民館インターネット活用コンクールで表彰されました。

白山市内には28のコミュニティセンターがありますが、LINE やインスタグラムをしているところは約半分です。加賀野ではすべて運用していて、内容も高く評価されています。市のデジタル課からも、加賀野のLINE は素晴らしいと言っています。貸館の状況が分かるようになっていて、予約もできるようにしています。これは皆さんの意見を受けて、職員が対応しました。加賀野はかなり進んだ取り組みができている地区だと思います。

皆さんが住みやすい町にするために、連携しながらより良い町をつくっていきたいです。そのために、コミュニティセンターとしても力になればと思っています。

LINE の仕組みはコミュニティセンターの職員が作っています。利用状況がすべて分かります。例えば今日はこの部屋でミライ会議があり、体育館は何時から何時までは予約されている、といったことも確認できます。使っていないところは空いているので、LINE で仮予約の手続きができるようになっていきます。こうした仕組みを作っているのは、おそらく加賀野だけだと思います。

(市長)

地域コミュニティ組織化、コミュニティセンター化して活動が増えたのは良い一方で、世話をすることが増えて時間が取られるという声も他地区ではお聞きしています。

(参加者)

チラシにもある「活動は活発になりましたが、コミュニティセンター職員に頼る部分が多く、負担が心配です」という声は市内全体として多いと聞いています。センター職員が企画や運営まで担っているところが多く、職員は大変だと思います。

一方で加賀野では、職員は予約業務などはしますが、基本的にそれ以外はあまり手をかけなくても回っています。地区の皆さんが日々の活動をしっかり進めているからです。そうした点で、良い地区だと思っています。

加賀野では、組織をこうしてほしい、ああしてほしいと強く言わなくても、各団体が独自に動いています。背景には、以前の公民館長が体制を整え、その流れが受け継がれていることがあると聞いています。そこが進んでいない地区は、組織を動かすために大変な状況にあると思います。

もう一点として、各種団体の連携が深まり、子ども会と壮年会が合同で行事を開催しました。複数団体で進める場合は協力依頼をして実施しますが、今年は特に取り組みが進みました。

#### ◆ 市から区長会や町会連合会に地域コミュニティ組織についての説明や報告をしてほしいと思います

(参加者)

今ほども出ましたが、加賀野はスマートフォン1つあれば、ある程度のことはみんなが把握できるようになっています。ただ、高齢の方が少し心配です。この点は、28地区の地域コミュニティ組織代表の会でも「どうなのだろう」という声が出ていました。そこを補ってあげれば、さらに良い地区になると思います。

区長会と地域コミュニティ組織との関係について感じていることをお話します。確か平成31年頃から地域コミュニティ組織化の話が出て、協働推進課の方が区長会で熱心に説明していました。しかし近年は、区長会や町会連合会に対して協働推進課からの説明はほとんどなく、こちらから声をかけて初めて来て話すような状況となっています。これは他の28地区の理事の方も感じていることではないかと思っています。

私が町会連合会に出ていた頃、最初は「地域コミュニティ組織化の窓口はどこですか」と聞くと「区長会です」と言われていましたが、今後も、区長会に対するコミュニティセンターの支援が充実すればありがたいです。私たちも自分たちの仕事で手一杯ですが、それでももう少し情報が欲しいと思っています。今はセンターから私が情報をもらうだけなので、区長会の方にももう少し情報が回ると良いと感じています。

(市長)

その頃、私は町会連合会で会計をしていたので、そういう話はよく出ていましたね。区長会との関係は確かに課題ですね。

(参加者)

町内会長さんは1年で交代される方が多いので、その点も含めて難しいところはあると思います。ただ、町内会長さんに頑張ってもらい、町内を充実させていただくことが区長会として一番求めるところです。だからこそ、こちらが情報を出したくても出せない状況になるのは困ります。

(協働推進課長)

地区ごとの町内会長会と地域コミュニティ組織はともに重要な役割を担っていただいており、双方の協力体制が不可欠だと考えています。

今後も協働推進課から必要に応じて地区町内会長会へ情報提供を行い、関係者がしっかり連携できる体制を作っていきたいと思っています。

◆ 防災委員会と青年会、子ども会が連携して防災の体験学習会を開催しました

◆ 若い世代も楽しみながら参加していて加賀野の未来は明るいと感じています

(参加者)

啓発活動の一環として、今年は小学校の子どもたちを対象にした学習会をやってみようと考えました。ただ、防災委員会だけでは人員が足りなかったため、子ども会と青年会の皆さんに声をかけ、企画段階から何度か話し合いを重ね、8月に開催しました。

当日は、防災クイズに加え、体育館で担架、簡易トイレ、段ボールベッドなどの防災体験を行いました。防災食についても、青年会や子ども会の皆さんに、子どもたちの見守りや準備などを手伝っていただきました。

私たちだけでは運営しきれない部分があるので、地区それぞれの強みを生かして連携することで、混乱もなくうまく進められたと感じています。

(参加者)

加賀野の青年会は立ち上げて3、4年ほどですが、「カレーを作る人たち」という形でブランディングしています。今回はカレーを作り、防災食のアルファ米にかけて提供しました。

(参加者)

子ども会だけでは、こうした防災の場を体験する機会はなかなかありません。今回のように一緒に参加できたことで、子どもたちも楽しみながら参加できました。

(参加者)

以前、市長から「加賀野は組織がしっかりしているので、そのまま進めるとそれが地域コミュニティ組織になる」と言われたことがあります。防災やスポーツ協会なども含め、センターを中心に、周りの団体が一体となって動いています。

どこかの団体に悩みが出ても、各団体で話し合い、協議して解決していこうとしています。防災も、これまでは防災委員会中心でしたが、各団体に声をかけ、全体で取り組む防災訓練を行いました。加賀野では、自然とそうした形に入っていけると思います。

(市長)

役割があって、みんなが連携し、楽しみながら防災に取り組んでいるのは素晴らしいですね。

加賀野は地域愛や地域を思う気持ちがしっかりあると思います。そうした土台ができているのは、日頃から地域活動を長年積み重ねてきた成果だと思います。

(参加者)

加賀野へ来て、20 数年になりますが、最初は地域の交流が面倒に感じていて、行事にもあまり参加していませんでした。ですが、地区の子ども会の会長を務めたことで、加賀野には素晴らしいコミュニティがあると実感し、それ以来、地域の場に参加するようになりました。コミュニティセンターの皆さんの尽力もあり、役を担っても過度な負担がかかる状況ではなく、本当に良い地域だと思います。

これからもう一步前に進み、さらに良くしていくには、私のように若い頃あまり参加しなかった人が、もっと地域に関わっていけると良いと思います。青年会の皆さんのように役割を楽しみながら動いてくれる人もいて、加賀野の未来は明るいと感じています。

#### ◆ 青壮年会から青年会が独立し、若い方が地区事業に楽しんで参画しています

(参加者)

3 年ほど前に、青壮年会を青年会と壮年会に分けました。「壮年会」という名前だと若い人は入りづらいと思ったからです。学校を卒業して就職したばかりでも入りやすいように、青年会という形を作りました。その結果、青年会・壮年会・友賀会という体制になりました。

今の若い方は、子ども会も含め、子どもの行事があればお父さんも出てきますが、普段は女性が中心で、男性をあまり見かけません。青年会を立ち上げて募集し、楽しんで活動されている方もいて頼もしく思います。

(参加者)

分離したことで青年会が若い組織となり、さらに「各町から2人出してください」という形で参加が進みました。そこへ文化祭の手伝いなど、さまざまな協力のお願いもしています。

#### ◆ 高齢化で公園の美化に苦勞しています

#### ◆ 最近の流れでは子どもが行事に参加すると、お母さんに加えお父さんも参加します

(参加者)

高齢化で、公園の美化に苦勞しています。加賀野には8つ公園がありますが、除草がなかなか回らず、美化委員会を作りました。今は5名ほどで動いています。以前は各町の公園は各町で管理し、中央公園は全町でブロック分けして作業していましたが、年齢の影響で参加が減り、区長会が費用を出して作業する状態になっています。

公園はかなりきれいにはしていますが、継続は簡単ではありません。若い人が集まりにくい上に、草刈りも剪定も費用がかかるからです。

また、市に伐採をお願いしても、1年、2年と進まないこともあります。去年は七号公園で2本切ってもらいましたが、それくらいです。そこで公園緑地課と話をし、草刈りや伐採はこちらでやるので、回収だけは確実にお願いしたいと伝え、来てもらっています。これは助かっています。ただ、今のメンバーも高齢で、引き継ぎが難しく、それが大きな悩みです。

市の応援ももう少し欲しいですが、来ても作業は軽く終わることが多く、完全には片付きません。今は、美化委員会で刈り、各町内で公園を持つところは各町内で袋詰めして出す、という連携で進めています。

(市長)

地域にとって、公園の美化は本当に大変な仕事ですね。白山市は面積も広い中で、こうしてとてもきれいな公園になっていて、ご協力に感謝します。放っておくと伸び放題になって大変なので、公園緑地課にも伝えます。

(参加者)

青年会に各町から2人出いただいていますので、その皆さんにも作業をしていただいています。

(参加者)

協力をお願いしている青年会をはじめ、各種団体とコミュニティセンター、区長会は、どれが上でどれが下という関係ではなく、それぞれ独立して動いています。センターは、みんなで作る時に協力依頼をしますが、命令する形ではありません。

(市長)

子どもが行事に出ると保護者も出てくる、という話がありましたが、子ども会の行事には多くの方が参加していますか

(参加者)

地域イベントとして、子ども会単独の行事は開けていません。子どもが行事に出る時は、お母さんが行くとお父さんも一緒についてくる、という流れが多いと思います。社会体育大会でも、子どもが出たいとなれば、普段はお母さん中心でもお父さんが出てきます。遊びでも行事でも、そういう形になっているのだと思います。

#### ◆ 防災の知識を身に着け、災害時にどう判断するかを事前に共有できる場があればよいと思います

(参加者)

加賀野をもっと良くしていくために、今後取り組むべきなのは「知識」だと思います。加賀野は日頃の活動では団結力がある地域なので、今の取り組みを続けつつ、判断に役立つ知識を共有できる形にしていけば良いと感じています。

例えば災害時に、近場で軽く水があふれた時に、どんな行動を取ればよいのかというようなことです。「高台に逃げてください」と言われても、暗い中で足元の不安定な高齢の方が水の中を歩くのは危険です。雨が収まるまで二階などへ移動して待つのが良いのか、無理をしてでも避難すべきなのか、状況に応じた判断の目安を事前に示しておけると安心につながります。

また、地震の時には、「津波が来ます。逃げてください」と放送が流れ、みんな一斉に動き始めました。ただ、この辺りは海拔も16mほどあるので、津波の影響はほぼ大丈夫なはず。知識があれば、もっと落ち着いて行動できると思います。

高齢化が進む中では、こうした知識を伝えることが今後ますます大切になると思いますし、情報をどう判断するべきかを事前に共有できる場があると良いと感じています。もし、そのために活動できることや情報源があるなら、教えていただけるとありがたいです。

(市長)

確かに、防災訓練をしても、どう逃げるか、どう判断するかは、知識としてしっかり持っておく必要がありますね。

今回、ハザードマップを改善しました。内容の研修などは危機管理課でも行いますので、また声をかけてください。

◆ 防災委員会を中心に、地区全体の避難訓練や啓発活動、町内会ごとの訓練などを工夫して行っています

◆ 県の防災活動アドバイザーを活用しやすくしてほしいと思います

(参加者)

防災委員会はできて5～6年ですが、コロナが落ち着いて人が集まれるようになり、昨年度から地区全体の避難訓練が実施できています。各町会長の皆さんに支えていただいたおかげで、多くの方に参加してもらえてうれしく思っています。

また10月も、各町会長さんをお願いして、町会ごとに無理のない範囲の訓練をしています。例えば消火栓を開けて放水する訓練や点検、高齢者宅の見守りなど、工夫して実施してもらっています。

啓発としては、学習会や研修会の開催、場の提供に加え、年4回「防災だより」を発行し、「こういう時はこうした方がよい」といった情報を伝えています。昨年1月の地震を受けて全戸アンケートも行い、その結果を全戸へ配布しました。

ここでお願いがあります。私たちの活動は委員会だけでは回らないので、県の防災活動アドバイザー制度を活用してきました。ただ、今年から市が運用する形に変わり、これまで文化祭でお願いしていた啓発活動が「目的に合わない」と言われました。文化祭では、アドバイザーの方に啓発グッズや写真、説明資料、パンフレット、防災リュックに入れる物品などを提供してもらい、それを展示して来場者に説明してきました。

市内全域の地域コミュニティ組織の中で、防災を柱の一つとして取り組み始めたばかりの地区も多く、支援の幅をもう少し広げてほしいです。会議や講演会での助言だけでなく、啓発活動やグッズの提供も対象にできないか、1回いくらという形でもいいので、検討してもらえないでしょうか。啓発の材料は地区だけでは作りにくく、立ち上げたばかりの組織だとさらに頼る部分が多いと思います。市独自の仕組みとして、活用の幅を広げる方法を検討してほしいです。

(市長)

地域コミュニティ組織(コミュニティセンター)の文化祭を回っていると、防災アドバイザーの方は、細かくいろいろ説明してくださっているものですね。私も現場を見て、かなり有効だと感じていました。

(総務部長)

これは昨年度から市の事業になり、市民の皆さんから依頼をいただき、依頼された方に派遣をするという形で行っています。

今お話のとおり、アドバイザーさんには文化祭で写真パネルを展示し、来場者へ説明してもらっています。とてもありがたい活動です。啓発活動としてお願いしたい気持ちはありますが、本来防災活動アドバイザーは、防災講演会や防災訓練での指導などを想定しています。

文化祭で多くの方に説明していただく活動は該当しそうにも見えますが、検討の上、現状では防災活動アドバイザーの活動に啓発活動を含めることはできないと考えています。引き続き、防災訓練や防災学習会での講師等のご要望に防災活動アドバイザーを派遣していきたいと考えておりますし、制度の趣旨についても周知していきたいと考えています。ご理解をお願いいたします。

#### ◆ 友賀会は活発な活動をするとともに、会員の状況や困りごとなどを把握するようにしています

(参加者)

友賀会(老人会)では年に6回ほど、2ヶ月に1回のペースで行事を行っています。会員は約100名ですが、参加は3~4割で、30~40名が集まります。参加する人はある程度固定されていて、組織全体もかなり高齢化しています。

友賀会の会員に限らず、どこも同じ傾向だと思いますが、老夫婦世帯や一人暮らしの方が増えている中、行事に出てこない方が多く、そこを心配しています。

行事に参加しない会員ともつながりを保つために、コミュニティセンターの「加賀野だより」とは別に「友賀会だより」を作って配っています。グランドゴルフ大会での入賞なども載せて、少しでも関心を持ってもらえるように役員と相談しながら作っています。効果がどこまであるかは分かりませんが、脱退する方は比較的少なく、むしろ増えている状況です。一定の効果はあるのかもしれないと感じています。

(参加者)

行事は高齢者ウォーキングを毎週土曜日に、スカットボール大会やグランドゴルフ大会も年に3~4回開催しています。定例会は毎月1回で、そばの会や健康麻雀大会も行っていて、活発に活動していると思います。

各行事は、友賀会で開催日をLINEで案内して申し込みを受け付けています。コミュニティセンターの予約は、窓口で書面での手続きをしています。

(市長)

白山市では「あたまとからだの健康増進事業」を進めています。認知症予防には運動やウォーキングが有効だということで、松任石川中央病院の先生からも評価をいただいています。こうした取り組みを続けていただけるのはとても良いと思います。

(参加者)

ウォーキングの参加者は固定化していて、多い時でも10人前後です。少し寂しくなってきたので、工夫が必要だと思っています。距離も長く、道の駅めぐみ白山まで往復約4キロで1時間ほどかかります。雨が降らない限り毎週行っています。

友賀会全体として高齢化が進んでいて、中心が80代になっているので、少し若い世代に加入していただきたいと考えています。壮年会が70歳までなので、70歳になった人たちに入ってもらいたいです。

(参加者)

地区としては友賀会がありますが、町内会ごとの高齢者の集まりはあるところとないところがあります。そうした組織があれば、一人暮らしの方などに声をかける民生委員の方も動きやすいと思います。友賀会が積極的に活動してくれているのは助かっています。

(参加者)

友賀会は、12町内会からの代表者である理事に会長などを加えて、役員は計17名です。役員会を毎月1回必ず開き、行事や連絡事項を決めて実行しています。

役員会では、困りごとがないか、高齢の方が入院したなどの理事が把握している情報も持ち寄り、できるだけ会員の生活状況をつかむようにしています。こうした場があることで情報が入ってきて、良い取り組みだと思っています。

#### ◆ 地区社会福祉協議会は高齢者が集まって会話できる時間や場所を作ることを目的にしています

(参加者)

地区の社会福祉協議会は、町会から選出された役員、福祉協力員、民生委員、ボランティアの会、各種団体の会長の皆さんに入っただき、合計33名で活動しています。

事業としては、施設見学などの勉強会、月1回の福祉協力員による「お元気ですか訪問」、それから「福祉だより」の発行を行っています。

加えて、毎月第2木曜日に「地域ふれあいサロン いきいき加賀野」を開催しています。10月で通算247回目を迎えます。地域内の65歳以上の方を対象に、毎月内容を変えながら、お茶飲み会のような形でイベントを行い、参加者に楽しんでもらっています。高齢者の皆さんが集まって会話できる時間や場所をつくることを目的に活動しています。

(市長)

社会福祉協議会の方で、メンバーや高齢者の名簿のようなものは持っていますか。

(参加者)

名簿はありません。今は個人情報の問題が厳しい時代です。会を開く際には名簿は作りますが、そこでも「電話番号を載せるな」という意見が出ます。社協としては連絡網が必要なので、せめて電話番号くらいはと思いますが、それも難しいという声は最近があります。

(市長)

老人会に入っていない方などへ声かけできるのは、民生委員さんが中心になりますか。

(参加者)

そうですね。先ほども出ましたが、町内会ごとの老人会の組織があれば、こちらから声かけができますし、民生委員さんも「大丈夫ですか」と声をかける機会を増やしやすくなりますが、ないところもあります。そういう仕組みは大事だと思います。

#### ◆ スポーツ大会は高齢化の中でも楽しく参加できるよう種目を見直すなどの工夫をしています

(参加者)

スポーツに関してですが、社会体育大会は地区全体の行事として行っていて、スポーツ協会としての事業を年6回実施しています。近年は高齢化の影響で人員確保が難しくなり、行事の見直しを進めています。

現在、10町内会から2名ずつスポーツ協会に出てもらい、その方が町内の参加者を集めています。ただ、参加者が集まらず、棄権する町内が少しずつ出てきました。年配の方でも楽しく参加してもらえればと思っていますが、勝負にこだわりすぎて参加しづらくなる場面もあります。

社会体育大会では、若い人が少なく走る人がいないためリレーをやめる、綱引きはきついでやめるなど、種目を減らしてきました。年6回の行事でも、ビーチバレーやバドミントンは動きが激しいため、誰でもできるものとしてスカットボールに変えるなど工夫しています。男子のソフトボール大会も毎年行っていましたが、若い男性が集まりにくく、続けるのが難しい面があります。

先月は地域コミュニティ組織(コミュニティセンター)の行事としてウォーキング大会を行いました。ウォーキングなら勝敗を気にせず、1人でも参加できるので、内容を変えながら続けていますが、運営は苦勞しています。また、モルックなど新しいスポーツも取り入れて、誰でもできる形を考えています。

(参加者)

高齢化が進む中で、スポーツ大会の内容も変えていく必要があります。笠間駅周辺は新幹線の影響もあって宅地化が進み、若い世代が増えています。青年会の皆さんの年代の

方も多く、そういう方はスポーツをやりたいがります。ただ、他の町内は高齢化で参加が難しく、差が出ています。

町内によっては人口が減ったところもあり、毎年課題になります。参加者が少ない町内は、2町で合同チームにして行事に出ることも検討しないといけないという話も出ています。基本は町内対抗なので、その辺が悩ましいところです。

(市長)

今年、文化祭を回った時に、大学生が来てeスポーツを行い、子どもや高齢の方も一緒に参加していた地区がありました。ただ、準備はかなり大変かもしれませんね。

### ◆ コミュニティスクールや部活動の地域移行には課題も感じていますが、地域でどう子どもたちを支えるか模索していきます

(参加者)

子どもに関しては、「放課後子ども総合プラン」があり、加賀野では「スマイルキッズ」として月2～3回、県から20万円の助成を受けて放課後支援プログラムを行っています。28地区の中でも取り組んでいるのは2～3地区ほどではないかと思います。

また3年前からコミュニティスクール化が始まり、学校から地域にサポートの相談が来ています。「地域と一緒に学校をつくる」という大きな目標があるようですが、地域として、できる限り支えていきたいと思うものの、正直、課題が大きく簡単ではないと感じます。

私は松陽小学校の運営コーディネーターを引き受けて今年で3年目です。具体的には、史跡見学(笠間の史跡)、紙芝居、町探検、家庭科のサポート、高齢者の交流、運動会の見守りと警備、学習交流(高齢者と子どもの交流会)などで、依頼に応じて参加者、協力者を紹介する形で学校と一緒に取り組んでいます。

ただ、学校に頼まれたことをそのまま受けるだけで良いのか、最近は疑問も出てきました。今後さらに良くするには、学校ともっと密に連絡を取り合う必要があると思います。

さらに小学校だけでなく、中学校の部活動も来年から変わります。受け皿について、コミュニティセンターとして検討しているところです。すぐにできることではありませんが、地域が小中学校を支える必要が高まっているのは事実だと思います。

今日、子ども会会長は子どものスポーツ指導で欠席ですが、そのような形で支えている方も多くいます。そうしたことも含め、地域の子どものことをどう支えるかは大きな課題です。できることには限りがありますが、目標を整理し、協力をお願いしながら進めたいと思います。

(参加者)

コミュニティスクールについても、区長会ではほとんど聞いていませんでしたし、地域の人はほとんど知らないと思います。地域に持ち帰って報告する役がコーディネーターだという理解でしたが、そうでしたよね。

(参加者)

コーディネーターをしましたが、現状では役割もそこまで把握できておらず、地元でフィードバックしてほしいと言われたこともありませんでした。

(市長)

これまでの学校運営協議会を「コミュニティスクール」という形にし、コーディネーターに入ってもらって、学校と地域の連携役を担ってもらっています。コミュニティスクールとは、「地域とともにある学校」であり、学校と地域住民が力を合わせて学校運営に取り組む仕組みです。これまでも運営協議会には地域の方が参加していましたが、より地域との連携が深められると考えています。

今年度からは市内全ての小・中学校でコミュニティスクールが開始し、広報やホームページ等を通じて周知をしています。また、市の施策や事業の内容などについて市職員が講師となってご説明する「まちかど市民講座」でもテーマとしていて、具体的な事例などをお知らせしていますので、お気軽にお申し込みください。

各学校からも、地域に向けたより身近な広報活動(コミュニティスクール通信など)を行って、地域の皆さんのご理解を呼びかけたいと考えております。

部活動については、「なくなる」というより、土日分を地域にも協力してほしいということです。コミュニティセンターで子どもの活動があれば、そうした場に参加することもできます。

コミュニティスクールも部活動の地域展開も全国的な流れですが、教育委員会にさらに周知するよう伝え、地域で子どもたちを育てるという観点で、ご理解、ご協力をいただけるようにしていきたいと思えます。

(参加者)

コーディネーターを務めていても、コミュニティスクールについて十分に理解できているとは言えません。どう作り上げていくか、具体的にはまだ分からず、今は学校から求められることを対応している段階です。学校が主体にならないと進まないの、地域側が主導するのは難しいです。

部活動に関する話はコミュニティセンター長会でも教育委員会から聞いています。ただ、難しい面があり、解決しなければならない課題がたくさんあるのも事実です。

(市長)

今日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。加賀野地区はうまく運営されている一方で、さまざまなご苦労もあることが分かり、大変参考になりました。いただいたお話は、今後の市政運営に生かしていきたいと思えます。今日はありがとうございます。